

<研究ノート>

観光行動の成立過程

に関する実証研究(Ⅱ)

——“避けたい”観光地の選択要因の分類を中心にして——

村 上 和 夫

1. はじめに
2. 結果
 - (1) 記述の分類
 - (2) 避けたい観光地を規定する要因の分析
 - (3) 発見事実の要約
3. 考察
4. 課題
 - (1) 要因把握のモデルの構成について
 - (2) 独立変数（被験者の属性等）について

1. はじめに

本稿は、「観光行動の成立過程に関する実証研究（Ⅰ）—“行きたい”観光地の選択要因の分類を中心にして—」（本論集Vo. 16 No. 2, 以下〔村上1983〕と称す）の継続であり, “避けたい”観光地の選択要因の分類分析を試みるものである。

本稿で用いる諸変数や調査データは村上〔1983〕で用いられたものと基本的には同様のものであるが以下にその概要を示しておく。

(1) 目的

観光目的地の一般的な選択要因を実証的な調査資料に基づいて内容分析(Ⅱ)（避けたい観光地の負の主観的魅力）し, 行きたい観光地の一般的な選定要因の分析を

おこなう。

(2) 方法

詳細は村上〔1983〕を参照されたいが、本稿では、村上〔1983〕で示された(2.3)式すなわち、

$$E_k^{(-)} = \sum (V_k^{(-)} \cdot I_k^{(-)}) \quad (2 \cdot 3)$$

ただし $V_k^{(-)}$ = 観光地 i において予想される嫌な体験の避けたさの程度。

$I_k^{(-)}$ = 観光地 i において予想される嫌な体験の生起する主観的可能性

の考え方にもとずいて避けたい観光地を選定する負の主観的魅力について分析しようとするものである。

また、より確かな観光目的地の選択要因を得るために、被験者を一ヶ月以内に観光旅行の予定のある者(Aグループ)と、ない者(Bグループ)とに分け、両者の差について検討することとした。これは、操作的にAグループを観光行動に対する高モチベーション集団、後者を低モチベーション集団として理解していることによるためである(村上〔1983〕と同様)。

ところで、本稿における分析を開始する前に本調査研究で用いられているモデル(村上〔1983〕において(2・1)，(2・2)，(2・3)の各式で示した仮説モデル)について触れておきたい点がある。それは、このモデルに基づいて本稿で明らかにしようとしている、避けたい観光地の選択に働く負の主観的魅力(避けたさ)の概念と観光行動全体の生起に関わる負の動機づけ要因との区別についてである。両者はともに観光行動を通じてなされる対象に対する評価や、行動の決定に関する概念であり、実証的研究の中からは両者に多くの共通性を仮定し得るが、論理的には、他の行動に較べ観光行動を行なおうとする傾向の強さ(後者)と、観光行動を前提にその一環としての観光地選択の傾向(前者)とは異なった次元に属する概念として区別して把握する必要があると考えられるのである⁽¹⁾。

観光行動を生起させる傾向を強める作用を持つ要因は、観光行動を通じてそれらが充足される可能性がそこには期待されているとみなすことができるのであり、その意味でそれらの要因は、観光地選択のための要因に反映し得ると考えられるので

あるが、この脈格とは逆に、以下のような理由から観光地選択の要因が観光行動の生起の傾向性を示す要因とは区別され得ると考えられるのである。それらは、まず第1に、観光地選択の過程で考慮される諸状況は、実際に社会に現存する観光地にそれが限定され得ることから、観光行動の生起の傾向を強めるために作用する諸要因の充足の可能性もこれに限定され得ると考えられること。それゆえ、観光地の選択は観光行動に対する期待の一部がそこに向けられることになると考えられること。

第2に、第1の理由ゆえに、すでに観光行動の研究に際しては「観光対象」なる概念が用いられており⁽²⁾、観光行動ではその準備から目的地までの行程そして目的地における行動を通じて、複数の行動が観光者の期待に対応していると考えられているのであって、目的地の選択は観光行動を通じての意志決定の一環であっても目的地の選定が当該観光行動への期待を表わすことにはならないと考えるのが一般的である点があげられるのである。

このようにモデルの特性に留意したうえで、本稿における分析作業の手続を考えれば、村上〔1983〕と同様に記述を対象要素と述語要素とに分割して分類整理をしながらも、述語要素に主眼をおいた分析を進めることの必要性が高いといえることができる。これは、「○○がどうであったなら避けたいのか」を把握することになり、対象（観光地）の負の魅力を表わすことになるからである。香川〔1980〕は観光行動の生起の傾向性の高い要因を把握しようとする研究をおこなう中で観光行動を通じて期待される負の結果が対象要素と述語要素との対で表わされる傾向が強いことを既に指摘しており、観光行動を前提にその中での目的地選択を扱おうとする本研究のような場合において述語要素の分析に主眼をおいてこれを進めることの必要性を示唆している。

以上のような脈絡から本稿においては、記述の述語要素を中心に分析を実施することにした。

(3) 調査手続

調査の概要は以下のとおりである。

対 象：大学生 113 名、有効票81票（内女子 5 票）

なお、被験者の内1ヶ月以内に旅行の計画のある者40名、ない者41名であった。

期 間：1982年7月夏期休暇直前に実施⁽³⁾

方 法：面接調査法

調査内容：調査票は付表1に示されるとおりであるが、質問事項と調査方法との対応を示せば図1・1のとおりである。

表1・1 調査票の構成との対応

Step 1 期待される体験を 自由に記述させる	Step 2 体験の好ましさ、避 けたさを評定させる	Step 3 体験が生起する可能性 について評定させる
好ましい [*] 体験	1 () $V_1^{(+)}$ $I_1^{(+)}$	
	2 () } }	
	5 () $V_5^{(+)}$ $I_1^{(+)}$	
嫌な ^{**} 体験	1 () $V_1^{(-)}$ $I_1^{(-)}$	
	2 () } }	
	5 () $V_5^{(-)}$ $I_5^{(-)}$	

* 観光行動の成立過程に関する実証的研究（Ⅰ）で扱われる

** 観光行動の成立過程に関する実証的研究（Ⅱ）で扱われる—本報告—

2. 結 果

(1) 記述の分類

避けたい観光地で予想される嫌な体験として記述されたものは全体で405件⁽⁴⁾、260種類であった。記述の分類整理は、まずそれらを対象要素と述語要素とに分けることからおこなわれた。

分類結果を示したものが表2・1である。分類作業上該当のあったヤルは計36であった。

対象要素と述語要素との関係をみると、一部を除いて上述の方法において述べたように両者に関連のあることが窺える。この傾向は付表の記述内容の分類結果をみ

表2・1 記述内容の分類結果

	0 対象要素 無右記 びに分類 不能	1 観光資源 ・人文	観 光 事 業			人			計	大 分 類
			2 観光地 全般・ 遊び	3 宿泊・ 飲食施 設	4 交通	5 地元の人	6 異性	7 人・一 般		
0 述語要素無		8				2			10 (12.34)	
1 天気・気候が悪い		9							9 (11.11)	A 観光資源
2 破壊されている		4							4 (4.93)	
3 汚されている・きたない	8	11	9	9					37 (45.67)	
4 不便な	1			1	16				18 (22.22)	B 観光地・観光事業
5 混んでいる・人が多い	8		1		14			32	55 (67.90)	
6 物価・料金が安い	16		3						19 (23.45)	
7 サービス・商品が悪い	7		1	30					38 (46.91)	
8 観光地化されすぎている			27					3	30 (37.03)	
9 風紀が悪い	27		8					23	58 (71.60)	
10 出会いが無い	4						13	10	27 (33.33)	C 人間関係
11 不親切	3					10			13 (16.04)	
12 むだをする・失敗する	23								23 (28.39)	D 観光者自身
13 つかれる	12								12 (14.81)	
14 病気になる・事故をおこす	12				5			1	18 (22.22)	
15 不安がある	14								14 (17.28)	
16 期待はずれ	20								20 (24.69)	
計	155 (191.35)	32 (39.50)	49 (60.49)	40 (49.38)	35 (43.20)	12 (14.81)	13 (16.04)	69 (85.18)	405 (500.00)	—

出現率 = (件数/人数)・100 : 切り捨て計算

ればより明らかである。そこで、対象要素の分類を中心に述語要素をより大枠で分類した。それらは、

- A. 観光資源（述語要素 1～3）……………50件
- B. 観光地・観光事業（述語要素 4～9）…………… 218件
- C. 人間関係（述語要素10, 11）……………40件
- D. 観光者自身（述語要素12～16）……………87件

であった。

ここでは、対象要素の各項目の他に新たに「観光者自身」という項目が加えられた。この大分類でまとめられた述語要素の各項目に分類された内容は、対象要素とは関係を持たず、観光者自身の身体的・心理的な問題に関するものである。

以上の分類をもとに記述件数のみからみれば「観光地・観光事業」に関するものが最も多く次いで「観光者自身」に関するものであった。以下大分類を中心に述語要素について分析を加えることにする。

(1)―1 「観光資源」に関する述語要素

ここには、自然資源や人文資源および気候条件などの広い意味での観光資源に関する内容を対象要素として含む記述を分類した。

結果は表 2・2 に示されるとおりであるが、記述内容は汚れや破壊そして天気や天候の悪さに関する記述が主なものであった。述語要素を基準にしたこの大分類に分類された記述は全体で50件出現率は 61.72 %であった。

一般に観光資源の汚染・破壊が当該観光地の魅力を後退させるといわれているが、記述件数からみる限り、これがあげられる割合は相対的に低くなっている点が注目される。

(1)―2 「観光地・観光事業」に関する述語要素

観光地における施設に関する内容、交通ならびに観光地全般の運営管理に関する内容を対象要素としている記述をここには分類した。また、対象要素が欠落している記述の中でも「混んでいる」や「犯罪にあう」などのものは本分類中の各項目に対象要素無として分類した。

観光地全体の管理運営に関する内容も含めたために対象要素の「人・一般」に分

表2・2 「観光資源」に関する分類

対象要素 述語要素	対象要素 無及び右記に分類不能	観光資源 自然・人文	観光事業		人			計	A	B	T
			観光地全 般・遊び	宿泊・飲 食施設	地元の人	異性	人・一般				
1 天気・気候が悪い	4 5 9							9	4 (10.00)	5 (12.19)	9 (11.11)
2 破壊されている	1 3 4							4	1 (2.50)	3 (7.31)	4 (4.93)
3 汚されている・きたない	2 6 8	7 4 11	4 5 9	4 5 9				37	17 (42.50)	20 (48.78)	37 (45.67)
計	2 6 8	12 24	4 5 9	4 5 9				50	22 (55.00)	28 (68.29)	50 (61.72)

数字は左からAグループ、Bグループ、T(全体)の順、() = (件数/人数) ・100:切り捨て計算

表2・3 「観光地・観光事業」に関する分類

対象要素 述語要素	対象要素 無及び右記に分類不能	観光対象 自然・人文	観光事業		人			計	A	B	T
			観光地全 般・遊び	宿泊・飲 食施設	地元の人	異性	人・一般				
4 不便な	1 1		1	1				18	9 (22.50)	9 (21.95)	18 (22.22)
5 混んでいる・人が多い	6 2 8		1 1				15 17 32	55	28 (70.00)	27 (65.85)	55 (67.90)
6 物価・料金が安い	10 6 16		2 1 3					19	12 (30.00)	7 (17.07)	19 (23.45)
7 サービス・商品が悪い	5 2 7		1	15 15 30				38	21 (52.50)	17 (41.46)	38 (46.91)
8 観光地化されすぎている			13 14 27				1 2 3	30	14 (35.00)	16 (39.02)	30 (37.03)
9 風紀が悪い	12 15 27		3 5 8				9 14 23	58	24 (60.00)	34 (82.92)	58 (71.60)
計	34 25 59		19 21 40	16 15 31	14 16 30		25 33 58	218	108 (270.00)	110 (268.29)	218 (269.13)

数字は左からAグループ、Bグループ、T(全体)の順、() = (件数/人数) ・100:切り捨て計算

類した項目も相当数含んでいる。それらは施設のサービスの質や観光地の管理運営方策に関係のあるものであり、次項(1)―3「人間関係」と区別した。

ここに分類した記述は218件と全記述件数の半分強を占めている。また出現率も269.13%と1人あたり2件(1人5件記入してもらった)強の値を示して記述件数からみれば嫌な体験の多くは観光地や観光事業の管理運営に関していることが窺えるものとなった。

記述内容は「交通が不便」「道路などの不備」等の到達条件に関するもの、「交通渋滞」「人が多いこと」等の混雑に関するもの、施設のサービスの質や食事の内容に関するもの、「同じような土産品店」「一般化されすぎているところ」等の過度の観光地化に関するもの、そして「治安の悪さ」等の風紀に関するものなどであった。これらの内、到達条件や混雑、施設のサービス、商品に関する記述は内容に変化は少なく比較的統一性のとれたものであったが、過度の観光地化に関する記述や風紀に関する記述には多様な内容が含まれていた。詳細は付表を参照されたいが、多様な内容を含む後二者は、観光地の管理運営を考えるうえで示唆を与えるものである。

「観光地・観光事業」に分類された記述について示したものが表2・3である。

(1)―(3) 「人間関係」に関する述語要素

ここには、観光者どうし、あるいは対異性、対地元住民等、人の属性とは関係なく任意にむすばれる(本稿ではそれらが負の魅力を持つことに注意)人間関係に関する記述を分類した。

分類した記述の件数は40件、出現率は49.38%であった。

その内容をみると「出会いが無い」「地元の人の不親切」に関するものが主であった。村上〔1983〕では「出会い・ふれあい」は好ましい観光地の必要条件として高く評価されていたことと較べれば、このような記述がなされようことは十分に想定され得ることである。がしかし、その出現率を比べると本稿の値の方がかなり低くなっている。

「人間関係」に分類された記述について示したものが表2・4である。

表 2・4 「人間関係」に関する分類

対象要素 述語要素	対象要素 無記号に分類不能	観光対象 自然・人文	観光事業		人			計	A	B	T
			観光地全般・遊び施設	宿泊・飲食施設	交通	地元の人	異性				
10 出会いが無い	2 2 4					12 1 3 5 5 10		27	19 (47.50)	8 (19.51)	27 (33.33)
11 不親切	3 3					6 4 10		13	6 (15.00)	7 (17.07)	13 (16.04)
計	2 5 7					6 4 10 12 1 3 5 5 10 40		40	25 (62.50)	15 (36.58)	40 (49.38)

数字は左から A グループ, B グループ, T (全体) の順, () = (件数/人数) ・ 100 : 切り捨て計算

表 2・5 「観光者自身」に関する分類

対象要素 述語要素	対象要素 無記号に分類不能	観光対象 自然・人文	観光事業		人			計	A	B	T
			観光地全般・遊び施設	宿泊・飲食施設	交通	地元の人	異性				
12 むだをする・失敗する	10 13 23							23	10 (25.00)	13 (31.70)	23 (28.39)
13 つかれる	4 8 12							12	4 (10.00)	8 (19.51)	12 (14.81)
14 病気になる・事故をおこす	9 3 12			3 2 5			1	18	13 (32.50)	5 (12.19)	18 (22.22)
15 不安がある	7 7 14							14	7 (17.50)	7 (17.07)	14 (17.28)
16 期待はずれ	9 11 20							20	9 (22.50)	11 (26.82)	20 (24.69)
計	39 42 81			3 2 5			1	87	43 (107.50)	44 (107.31)	87 (107.40)

数字は左から A グループ, B グループ, T (全体) の順, () = (件数/人数) ・ 100 : 切り捨て計算

(1)ー4 「観光者自身」に関する述語的要素

ここには、対象が観光者自身と考えられる記述を分類した。

分類した記述の件数は87件、出現率は107.40%であった。これは1人あたり1件強の記述がなされたことになる。

記述内容をみると「むだをする・失敗する」「期待はずれ」「病気になる・事故をおこす」などのものが主なものであったが、総じて各項ともに多様な記述内容が含まれている。1ー(2)と同様に詳細は付表を参照されたいが、「期待はずれ」に分類した記述の中には「ひますぎる」「日常と変わらない」「近すぎる」などがあり、村上〔1983〕で示された「体験する・分かる・知る」「楽しむ・味わう」「いつもと違うことをする」などの述語的要素と対照を示している。

「観光者自身」に分類された記述について示したものが表2・5である。

以上、述語要素を中心に記述内容をみてきたが、総じてみるならば、村上〔1983〕で示された好ましさを決める述語要素の内容が「休息→ストレス解消→気分転換」といった流れにそった心理面に関するものであったことに較べて、ここでは述語要素が対象要素の条件に関する内容の記述となっているものが多い点が指摘される。

(2) 避けたい観光地を規定する要因の分析

本節では、述語要素による前節の分類を基礎に避けたい観光地を規定する要因を分析する。そのために、以下Aグループ（1ヶ月以内に観光旅行のあるグループ）Bグループ（予定のないグループ）の両グループに対して $V^{(1)}$ （嫌な体験の避けたさの程度） $I^{(1)}$ （嫌な体験の生起する主観的可能性）などの側面からの分析を加え、その差について分析をおこなうことにする。

(2)ー1 記述件数について

記述件数を出現率の考え方で表わし、A・B両グループについて示したものが図2・1である。

ここで、Aグループの方がBグループより値の高い項目は観光旅行が実際におこなわれようとする場面で作用する要素と考えられる。これに該当する項目を出現率が高い順に示せば「7 サービス・商品が悪い」「10 出会いが無い」「6 物価・料金

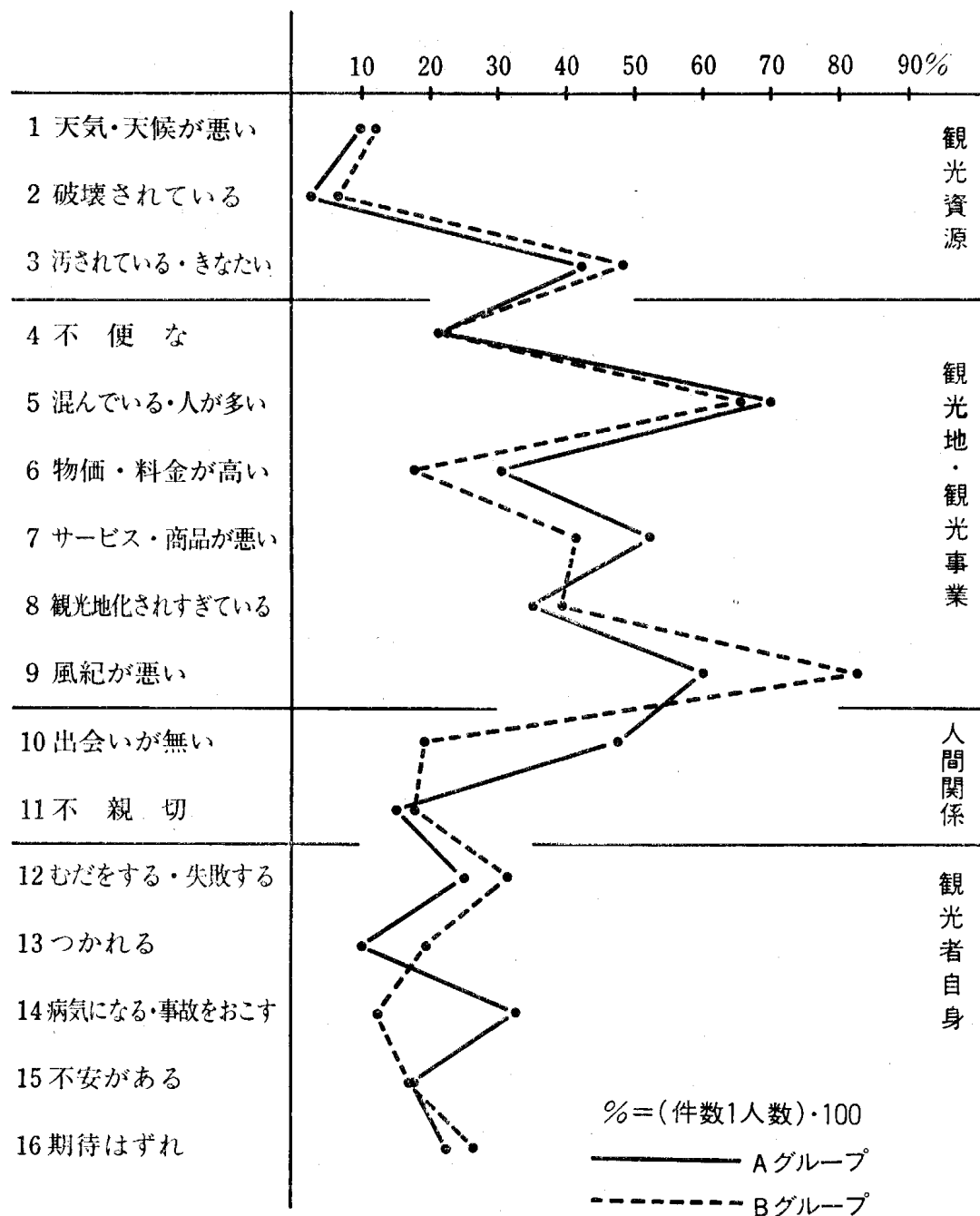


図2・1 記述件数（出現率）のプロフィール

が高い」「14病気になる・事故をおこす」の各項目があげられる。中でも「10出合いが無い」は記述件数を総数でみた場合、先に述べたように件数がそれほど多くはないが、A・B両グループの比較をおこなえば両者の差が最も多くなっており、村上〔1983〕の結果と対応を示すものとなっている。

また、以上とは逆にBグループの値がAグループよりも高い項目については、「9風紀が悪い」「12むだをする・失敗をする」「13つかれる」などの各項目があげられる。これらの項目をみるとそれらは社会的に好ましからざる事柄とみることができるが、実際の観光目的地の決定に際してそれを避けたい要因に加える程度は低下傾向を示すことが分る。このことは観光旅行に対する期待のホンネとタテマエを表わしたものであろう。「多少風紀が悪くてもかえっておもしろい経験ができるかもしれない」といったことであり、やはり村上〔1983〕において好ましさの規定要因としてあげられた「いつもと違うことをする」と対応する結果となっている。

ところで、「5混んでいる・人が多い」「汚されている・きたない」などは出現率が比較的高いもののA・B両グループの差がほとんどみられないという結果となった。これらの項目は避けたい観光地を指す一般的なことば（以下 共通語）であろうことを窺わせている。しかし、これらのことばが、本当に共通語であるかどうかは、それが観光地の選択に対してどのような評価を与えるかによって決るものと考えられる。以下、観光地の選択に対する項目の作用について分析を待つ必要がある。

(2)―2 避けたさの程度 $V^{(+)}$ 、実現可能性 $I^{(+)}$ について

A・B両グループについて避けたさ $V^{(+)}$ （以下 $V^{(+)}$ ）およびその実現可能性 $I^{(+)}$ （以下 $I^{(+)}$ ）を示したものが図2・2である。

まず $V^{(+)}$ からみると、全体を通じてその値は高くかつほとんどの項目でAグループの値がBグループのそれよりも高くなっている。避けたい要因について聞きさらに対象の特定部分について聞いていることからみてこのような結果は想定され得ることと考えられよう。

そのような中でとりわけAグループの値が高くかつBグループとの差の大きい項目についてみてみよう。「11不親切」「3汚れている・きたない」「16期待はずれ」「8観光地化されすぎている」「6物価・料金が低い」の各項目がこれに該当しており、実際の目的地選択に際してこれらの要因は避けたいと感じられる傾向が強いことが示唆される。

次に $I^{(+)}$ についてみると、 $V^{(+)}$ の傾向とはかなり異った傾向が示されており、Bグループの値がAグループより高い項目の方が多くなっている。「15不安がある」

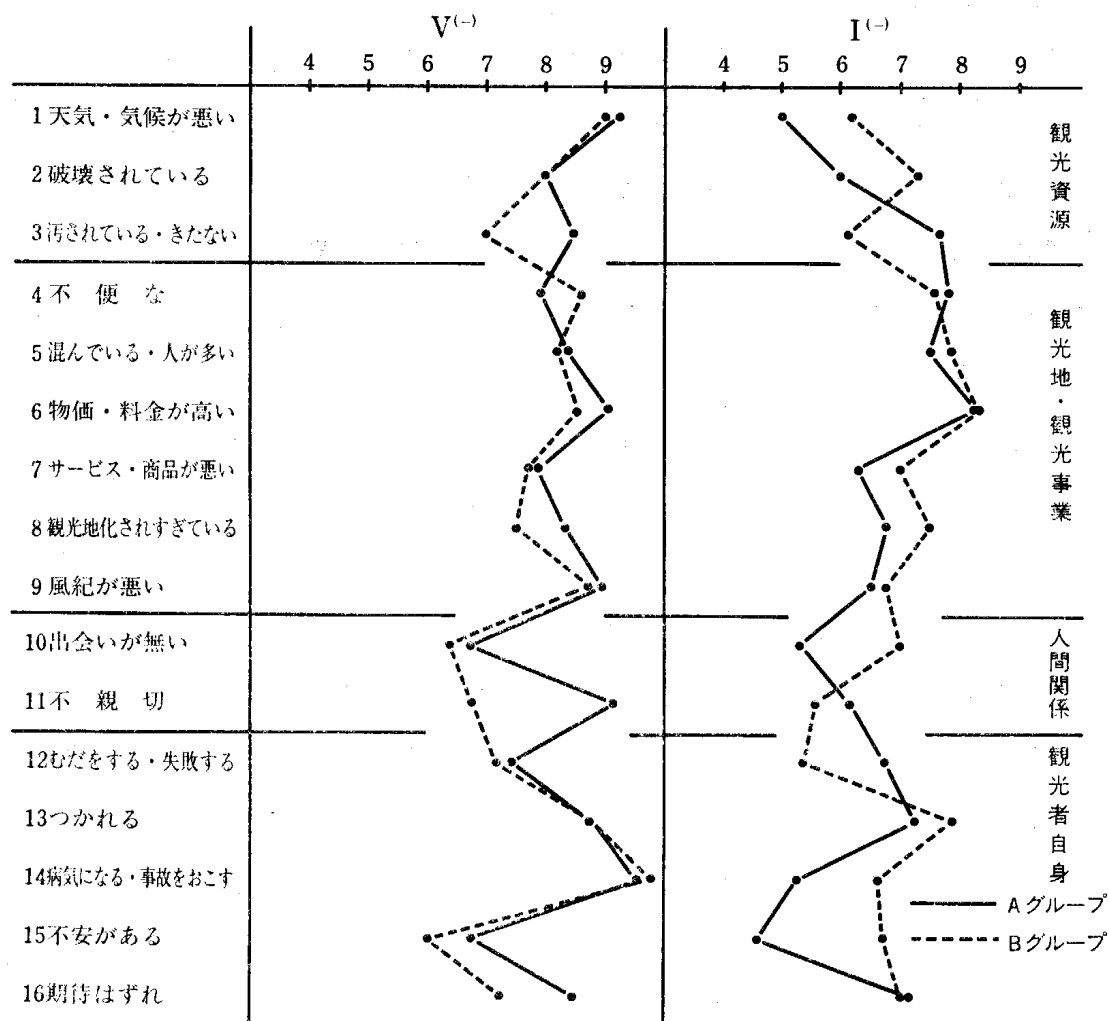


図2・2 避けたさの程度 $V(-)$ および実現可能性 $I(-)$ の平均値のプロフィール

「14病気になる・事故をおこす」「10出会いが無い」「1天気・天候が悪い」「2破壊されている」などの各項目で特にその差の大きいことが注目される。そして、これらの各項目について、再び $V(-)$ の値をみれば、そのほとんどでAグループの値がBグループのそれを上まっている。

このことは、避けたいと思われる事柄があってもそれが生起する可能性はあまり高くないと思われる傾向、いわば楽観的な見方が背後に存在することを窺わせるものである。このような結果を得た理由には、被験者が大学生であり、旅行経験が乏しかったり、要求水準が低かったりすること、さらに一般的傾向として観光地や観光関連企業の質が以前より向上してきたこと、雑誌等により観光地情報が多く提供

されるようになってきたことなどがあげられる。

以上のような傾向を踏まえながらも、Aグループの値がBグループのそれよりも高い項目をあげれば「3汚されている・きたない」「13むだをする・失敗をする」「11不親切」の三項目であった。

ところで、 $I^{(+)}$ において最も値が高くかつA・B両グループに差のない「6物価・料金が低い」について触れておかねばならない点がある。それは、この項目のようにA・B両グループにおいて実現の可能性が共に高く評価され、さらに前述の出現率も高い項目は、避けたい観光地の条件を述べたものとして受けとれるとしても、実際に回避要因として働く可能性は低いと考えられるからである。「金がかかることが誰にとっても避けたいことであっても、どの観光地へ行っても金がかかるとすれば、それ以外の条件の中から目的地を決めねばならない」ということを意味しているわけである。このような項目は避けたい観光地を規定する要因から一応除いて考える必要があると考えられる。

ここで、前項で共通語としてあげた二項目についても検討を加えておく。まず「5混んでいる・人が多い」についてみると、 $I^{(+)}$ においてBグループの値がAグループの値よりわずかに高く、 $V^{(+)}$ においてはその差がほとんどみられない。従って共通語とみなして良いと考えられ、「6物価・料金が低い」同様に避けたい観光地を規定する要因からは除く必要があるとみなされる。これとは逆に、「3汚されている・きたない」は、すでにみたように $V^{(+)}$ ・ $I^{(+)}$ とともにAグループの値がBグループのそれよりも高く、避けたい観光地の規定要因として作用する可能性は高いとみなすことができ、共通語とはみなせないことがわかった。

(2)―3 避けたさの程度 $V^{(+)}$ × 実現可能性 $I^{(+)}$ および記述件数（出現率）×避けたさの程度 $V^{(+)}$ × 実現可能性 $I^{(+)}$

$V^{(+)}$ と $I^{(+)}$ を乗じること（積和）により、各項目が避けたい観光地の選択要因として働く主観的な評価を総合することにした。これは村上〔1983〕と同様の手続である。この場合、その値の高い項目は、観光地が避けられる主観的な評価規準になり得るとみなすこととした。

Aグループの値がBグループよりも高い項目をあげれば「3汚されている・きた

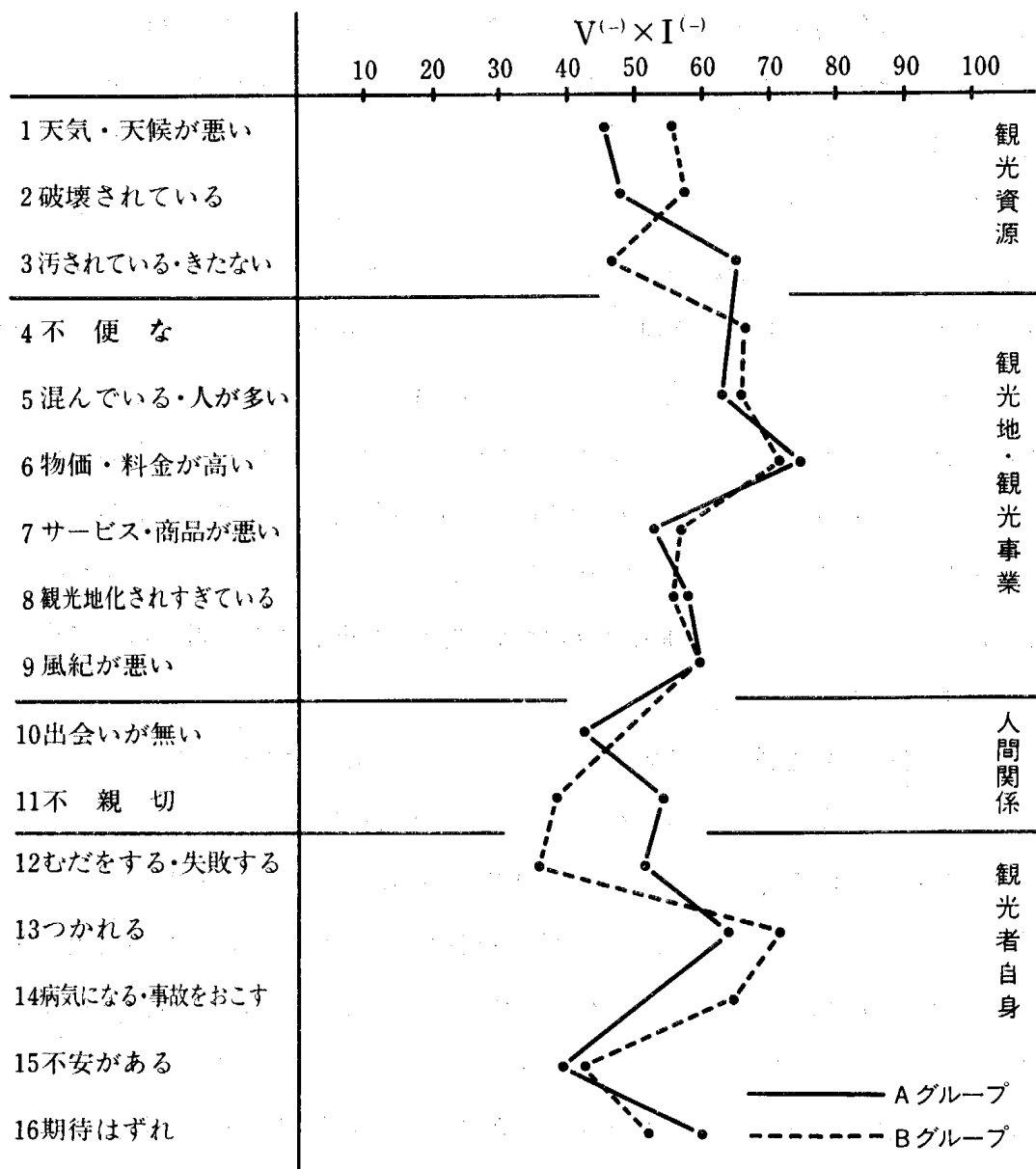


図 2・3 避けたさの程度 $V^{(-)} \times$ 実現可能性 $I^{(-)}$ の平均値

ない」「11不親切」「12むだをする・失敗する」「16期待はずれ」である。これらは、観光目的地の選定に際して、人に避けたいという気持ちを引き起こしやすい諸要因となり得るものと考えられる。

次にこの値に先にみた出現率をさらに乗じることにより、これら諸要因の一般性について検討を加えた。図 2・4 はその結果を示したものである。

A グループの値が B グループよりも高い項目を値の高い順にならべれば「3 汚さ

れている・きたない」「7 サービス・商品が悪い」「10 出会いがない」「14 病気になる・事故をおこす」「12 むだをする・失敗する」「11 不親切」となる。

上述の $V^{(-)} \times I^{(-)}$ との関連でみれば、これらの諸項目の中で、避けたさの規定要因として最も有力視される項目は「3 汚れている・きたない」であることが示唆される。

そして、 $V^{(-)} \times I^{(-)}$ でAグループの値の高かった「11 不親切」「12 むだをする・

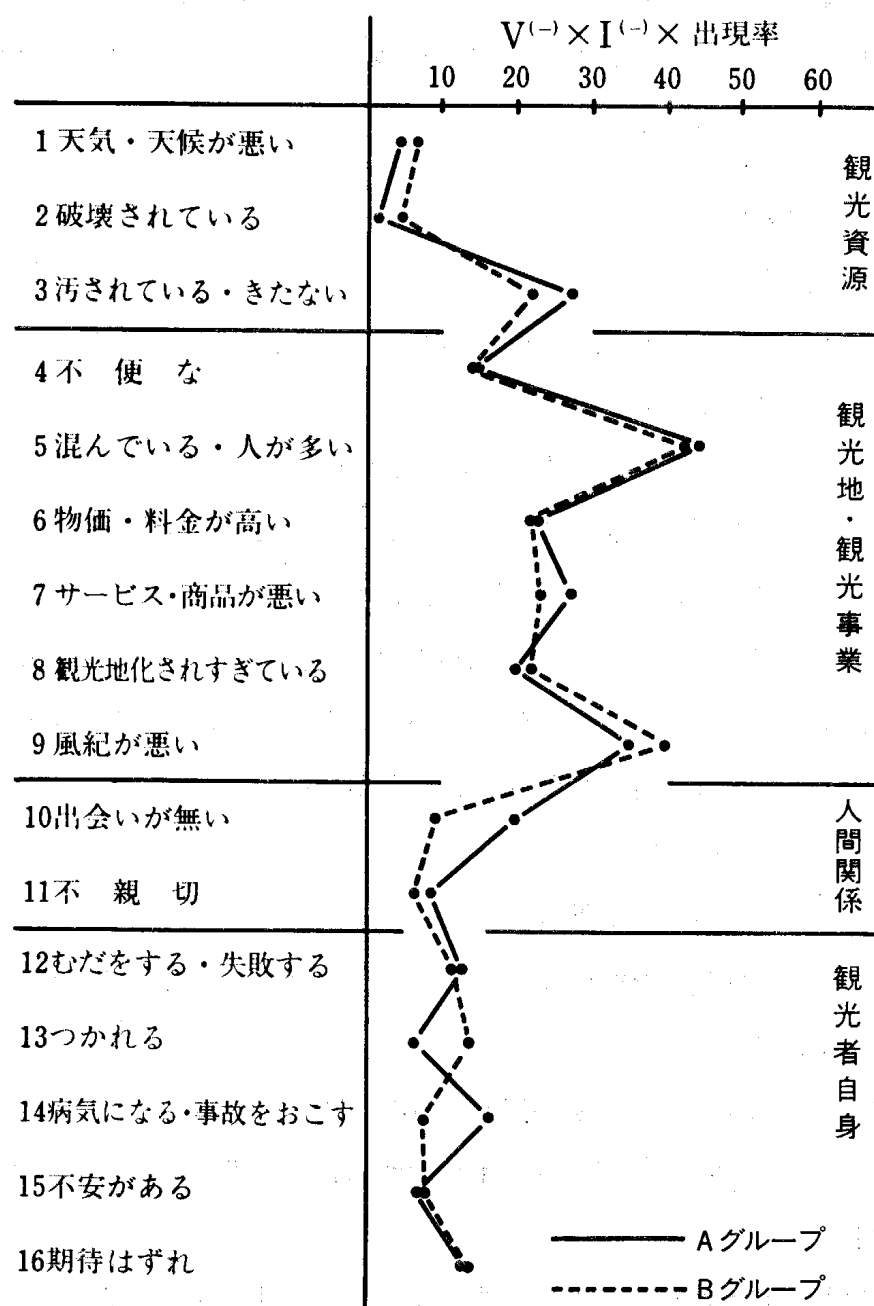


図2・4 記述件数（出現率）×避けたさの程度 $V^{(-)}$ ×実現可能性 $I^{(-)}$ の平均値

失敗する」はここでは値が相対的に低いものとなっており、主観的な評価規準となり得るとしても、これらが想起される可能性は低いことが示唆される。

また、以上三項目以外の各項目は、Aグループにおける出現率の高さが、ここで大きな差を生じさせる原因となっており、これらの項目は対象観光地の避けたさのチェック項目となっていようことが示唆される。

以上、本調査研究の結果を総合し、避けたい観光地の選択要因として示唆される項目を吟味したが、ここでの結果が大学生を対象とした、ことに男子学生を中心とした結果であることを明記しておきたい。

(3) 発見事実の要約

(3)―1 記述内容

避けたい観光地を規定する要因としてあげられた記述は405件であった。これらの記述は述語を規準にまとめられた。

記述件数の多かった項目は「5混んでいる・人が多い」「9風紀が悪い」「7サービス・商品が悪い」「3汚されている・きたない」(出現率40%以上)の各項目であり、これらが避けたい条件として想起されやすいことが示唆された。

しかし、A・B両グループの出現率の比較では、これら各項目にはそれほど大きな差はみられず逆に出現率のあまり高くない項目「7サービス・商品が悪い」「10出会いが無い」「6物価・料金が低い」「14病気になる・事故をおこす」でその差(A>B)がみられた。

(3)―2 避けたさを規定する要因

述語要素による分類項目を規準に $V^{(-)}$, $I^{(-)}$, $V^{(-)} \times I^{(-)}$, 出現率 $\times V^{(-)} \times I^{(-)}$ の各分析がおこなわれた。

$V^{(-)}$ では総じてAグループの値が高く、逆に $I^{(-)}$ では総じてBグループの値が高かった。 $V^{(-)}$, $I^{(-)}$ 共に A>B の項目をあげれば「3汚されている・きたない」「11不親切」であった。

また、避けたい観光地を語る共通言語として「6物価・料金が低い」「5混んでいる・人が多い」の二項目があげられた。

$V^{(-)} \times I^{(-)}$ では「3汚されている・きたない」「11不親切」「12むだをする・失敗する」「16期待はずれ」が避けたさの主観的評価規準となりうることが示唆された。

出現率 $\times V^{(-)} \times I^{(-)}$ では、「3汚されている・きたない」が最も主要な要因であることが示唆され、また、避けたい観光地のチェック項目としてサービスや商品の質、出会い、安全性などがあげられた。そして、「12むだをする・失敗する」「11不親切」の各要因は、それが想起されることは少ないがマイナスの主観的評価を得やすい要因であることが示唆された。

3 考 察

以下では、村上〔1983〕において得られた結果と本稿において得られた結果の双方をあわせて考察する。

本調査研究（以下、村上〔1983〕及び本稿の双方を指す）の結果を総合すると次の仮説的見解が示唆されよう。それは観光地の好ましさを規定する要因では観光地の環境条件よりも「人・一般」「異性」「出会い・ふれあい」「自由になれる」等の人間関係的要素の方がより強い決定力を持っていること。これとは逆に、避けたさを規定する要因では人間関係的要素よりも「汚されている・きたない」に代表される環境条件や施設・サービス・商品の質の方が強い決定力を持っていること、という見方である。観光旅行が精神的な面の期待の充足を主な目的として生起する行動であることを考えれば以上の見解は一定の論理性を有していると考えることができよう。（もちろん、本調査対象が男子大学生であることを踏まえたうえである。）

この見解をひとつの仮定として推論をすれば、人間関係的要素が観光者自身の社会的能力（経験や知識あるいは技能）に依存するとした場合、観光資源や施設等の観光地の環境条件は、観光目的地選択の一次的あるいは直接的な決定要因ではなく、観光者の社会的能力に準じた副次的な要因と考えることができる。一般に「あのスキー場で滑ることの醍醐味はスキーの上手な者でなければ分らない」などといわれるのはこのような理由によると考えることができる。ある特定の観光地にある特定の属性（性・年齢・技能など）を持った観光者が集中する場面（例えば、工芸・買物・スポーツ）を想起すれば、実際にその例を多く見い出すことができる⁽⁵⁾。

そして、この考え方がある説明力を持つとした場合、逆に旅行経験の少ないことなどで社会的能力が相対的に乏しい観光者が目的地を選定する過程で考慮する観光地の環境的条件は、これも相対的に乏しいものとならざるをえないと考えることができる。その結果、そのような観光者が当該観光地に対して描くイメージも漠然としたものとならざるをえないことは必然であろうし⁽⁶⁾、本調査結果の I^2 分析結果はこの点を示唆するものとも考えられる。

以上の仮定的推論に立てば、観光行動現実的な制約条件に拘束されたうえで次の各点が導かれると考えられる。

第1に、観光者が観光目的地に対して持つ情報は、観光行動が地理的な移動を伴うことなどからそれを完全に蒐集することに限界があり、自らの社会的能力に対応した条件を当該観光地が有しているかどうかを正確には知りにくい。

第2に、それ故、観光目的地に行く前と行ってからの評価との間に正負のイメージギャップが存在することを観光者は仮定することになる。

そこで第3に、観光者は、正の期待の高い観光地群の中から負のイメージギャップの最少と思われる目的地を選択したうえで、さらに負のイメージギャップを最少とするように行動すべく、観光行動の時間的経過にそって自分の能力に見合った段階的な意志決定を下す必要が生じることとなる。

この段階的意志決定の過程では、まず不確定な条件に対する吟味がおこなわれるであろう。その場合に当該観光地に対する負の期待の吟味がおこなわれることになろう。その判断如何によって観光地での行動の幅が制約されることにもなろう。前田〔1979〕は観光行動全体を通じて観光者がいかに緊張について日常生活圏を離れることとの関連で論じており、日程の前半は緊張が高く中ごろになるとそれが緩むことを示唆しているが、本推論はその理由の一部を構成しうるものでもある。

以上は、本調査研究の結果からは、かなり先の推論となったが、これらのある程度受け入れるとすれば、次の研究の段階としては観光行動全体を通じてそれに一定の拘束性を与える観光態度とでも称される対象の検討の必要性が示唆されるものと考えられる。

4 課 題

すでに村上〔1983〕において本調査研究において残された課題を二点示しておいた。すなわち①従属変数として特定観光地への観光の実施を採用すること、②妥当な要因リストの作成と測度の標準化である。これら二点は村上〔1983〕においてのみ該当する課題ではなく、本稿においても同様の指摘をすることができる。これらに加えここで残されたいくつかの課題を指摘しておく。

(1) 要因は握のモデルの構成について

本研究では目的地選択の要因を把握する第一歩として記述を分類し要素を抽出する作業が実施された。その為に各記述は可能な限り小単位の文にされ、そこから細かく要素を分類し、さらにその相対的な強度が分析された。その結果、すでにみたような一定の成果を得たわけであるが、本研究を基礎に実際の観光行動を説明変数として選択要因を明らかにしようとする場合に、研究手続上以下の点に留意することが必要となるものと考えられる。

まずあげられる点は、本調査研究で用いられたモデルにおいて、 $V \times I$ の積和に出現率を乗じた値の高い要素を好ましさあるいは避けたさが相対的に強い要因と解釈したが、対象地を特定化した場合には、この手続で値の高い要素のみを選定要因とすることに問題があると考えられる。それは、実際の観光地には複数の選定要因が関係していると考えからであり、それらがさらに複数の魅力群を構成しているものと仮定できるからである。そうだとすれば、先の値が高い項目単独では選定要因とみなせないからである。

次いであげられる点は、以上のようなことがありうるとすれば、例えば $V^{(+)}$ が高い場合 $I^{(+)}$ の可能性が少しでもあれば、 $V^{(+)}$ 、 $I^{(+)}$ が共に高いような要素との組み合わせで選定要因を構成する可能性を否定することはできないと考えることもできるのであり、このことは $V^{(-)}$ についても同様のことである。このような点への留意が次のステップの研究を実施するに際して残されるものと考えられる⁽⁷⁾。

(2) 独立変数（被験者の属性等）について

本調査研究は、男子大学生を対象に実施したものであったが、男子大学生といっ

ても出身地、自宅下宿等の別、収入、レクリエーション技能等において必ずしも一定の水準にあるとはいえない。その意味から本調査結果も弱点を持つが、それ以上に、この種の研究をより一般的なものとしていくうえで方法・手続上の問題点を残すことになると考えられる。

従来から各種調査では性、年齢、職業、収入、持家、自家用車の所持等で被験者の分類がおこなわれてきたが、本調査研究の考察で述べたような社会的能力を標準化して被験者の属性の分類にあてているものは少ない。この種の変数の探索も課題としてあげられる。

註(1) 観光行動をその準備の段階から行動の実行そして目的地での滞在等を含む一連の行動と理解すれば、そこには複数の選択場面の存在があることは改めて述べるまでもないことであろう。前田〔1982〕はそのような選択場面を海外旅行を例に費用や時間などの外性的な要因が主な要因となるタイプと行動内容が主な要因となるタイプとに分けている。が、前田のこの分類は対象が海外旅行であることなどから旅行経験の有無やその一般化という軸をその背後に有している（前田自身も同論文でそう述べている）。本論で扱おうとしているのは主として国内旅行であることから前田の指摘をそのままあてはめて考えることはできないがそれを参考とし選択場面の区分、連続性を設定した。

(2) 「観光対象」木平は『観光意欲を満たすすべてのものを観光対象という』木平〔1969〕として観光行動全般が観光に対する期待の対象物であることを示している。

(3) 村上〔1983〕に本調査の実施年が1981年とあるがそれは誤りであり訂正する。村上〔1983〕における調査と本稿における調査とは同時に実施したものである。

(4) 被験者1名につき5件の記述をさせた（付表1参照）。

(5) もちろん、特定の観光地への利用の集中には、デモンストレーション効果や経済的・時間的・季節的要因等の諸要因が他にも考えられ、集中化現象の理解にはそれらの諸要因を併せて検討せねばならないことを否定したものではない。

(6) 一般に観光者が観光行動前に抱く目的観光地に対するイメージには、当該観光地の事実とは明らかに異ったものが連想されることがあるが、前田〔1983〕によればこれらも含めて『各人にとっての“主観的事実”』として理解することの必要性が指摘されている。同様の点について今井省吾他〔1969〕もいくつかの観光地のイメージ調査を実施する中で類似の指摘をしている。

(7) この点は、本論の1(2)方法においてすでに指摘した観光者の観光行動に対する期待と観光地の選択要因との関連を持つ。が、調査手続上、具体的な記述の

収集という作業を前提とする場合には、作業が繁雑となり作業量のわりに期待される成果は少ないと考えられる。従って、村上〔1983〕で指摘したごとく、調査項目の標準化をおこなったうえで検討することが好ましいと考えられる。

〔文 献〕

- 1) 今井省吾〔1969〕『観光の心理分析』（財）日本交通公社
- 2) 香川 眞〔1979〕『Expectancy Theory による観光モチベーションの研究(Ⅰ)』
『大阪産業大学産業研究所所報』 No. 2 所収 p. 49～76
- 3) 香川 眞〔1979〕『Expectancy Theory による観光モチベーションの研究(Ⅱ)』
『大阪産業大学産業研究所所報』 No. 3 所収 p. 78～103
- 4) 前田 勇・香川 眞〔1978〕『観光行動と観光心理』 前田勇（編）『観光概論』 学文社 所収 p. 40～41
- 5) 前田 勇〔1982〕『観光者モチベーションに関する研究』『日本観光学会研究報告』 No.12 所収 p. 10～17
- 6) 木平 勇〔1969〕『観光対象』（財）日本交通公社（編）『観光事典』
所収
- 7) 村上和夫〔1983〕『観光行動の成立過程に関する実証研究(Ⅰ)』『横浜商大論集』 Vol. 16 No. 2 所収 p. 69～94

ここで観光旅行とは楽しみのための旅行をさし、仕事の為の旅行は含みません

- こととに期待される好ましい体相とは？——好ましい体相を得るに成功は？
 あかたが左記のような体相へ行くといふ
 場合、それによって得られる好ましい体相
 体相があるとするそれはどのようなもの
 がありましますか？
 好ましい体相を得るに成功は？
 あかたが左記のような体相へ行くといふ
 場合、それによって得られる好ましい体相
 体相があるとするそれはどのようなもの
 がありましますか？

[illegible]

- [illegible]

(思いつくままに)

	少し嫌だ	嫌な程度	好まない程度	好んで	可能性小	←実現の可能性	→可能性大	まあいい		
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

① 海外旅行 → 主な目的地 ()
② 国内旅行 → 主な目的地 ()

年齢は？ () 才

性別は？ L 男

職業は？ ()

もう一度お確かめください。――

付表2 記述内容の分類結果

述語要素 の大分類	述語要素	対象要素	記 述 内 容
観光資源	天気, 気 候が悪い 9	観光対象 (自然・ 人文) 9	<div> <div>天気が悪い</div> <div>1</div> </div> <div> <div>天気の悪さ</div> <div>1</div> </div> <div> <div>雷など(天候の急変)</div> <div>1</div> </div> <div> <div>天気がぐずつく</div> <div>1</div> </div> <div> <div>天候が不安定</div> <div>1</div> </div> <div> <div>気候があわない</div> <div>1</div> </div> <div> <div>気候が悪い</div> <div>3</div> </div>
			<div> <div>自然が破壊されている</div> <div>1</div> </div> <div> <div>緑がない</div> <div>1</div> </div> <div> <div>風景が気に入らない</div> <div>1</div> </div> <div> <div>人工的な風景が目につく</div> <div>1</div> </div>
	汚されて いる・き たない 50	対象要素 無 8	<div> <div>汚ない</div> <div>6</div> </div> <div> <div>くさい</div> <div>1</div> </div> <div> <div>車または工場のガスがくさい</div> <div>1</div> </div>
		観光対象 (自然・ 人文) 11	<div> <div>環境が悪い</div> <div>2</div> </div> <div> <div>きたない川をみる</div> <div>1</div> </div> <div> <div>海が汚れている</div> <div>1</div> </div> <div> <div>空気がきたない</div> <div>1</div> </div> <div> <div>汚ない空気を吸う</div> <div>1</div> </div> <div> <div>公害のあるところ</div> <div>1</div> </div> <div> <div>ほこりをかぶるところ</div> <div>1</div> </div> <div> <div>砂ぼこりをかぶるところ</div> <div>2</div> </div> <div> <div>日当りの悪い地域</div> <div>1</div> </div>
		観光地全 般・遊び 9	<div> <div>ゴミが多いところ</div> <div>4</div> </div> <div> <div>ゴミでよごれているところ</div> <div>2</div> </div> <div> <div>ゴミが目立つ観光地</div> <div>1</div> </div> <div> <div>ゴミがあるところ</div> <div>1</div> </div> <div> <div>イメージ(ゴミ)</div> <div>1</div> </div>
		宿泊・飲 食施設 9	<div> <div>清潔感のない宿</div> <div>1</div> </div> <div> <div>宿が汚ない</div> <div>2</div> </div> <div> <div>便所などの施設のきたない宿</div> <div>1</div> </div> <div> <div>風呂が汚ない</div> <div>1</div> </div> <div> <div>湯が汚ない</div> <div>1</div> </div> <div> <div>ゴミが多く不潔な宿</div> <div>1</div> </div> <div> <div>遊ぶところが汚ない</div> <div>1</div> </div> <div> <div>売店がきたない</div> <div>1</div> </div>
観光地・ 観光事業	不 便 な	対象要素 無 1	遠 い 1
		宿泊・飲 食施設 1	宿の心配 1
		交 通	<div> <div>交通が不便</div> <div>5</div> </div> <div> <div>交通の便が悪い</div> <div>2</div> </div>

観光地・ 観光事業	18	16	交通がわからない 1 道に迷う 4 複雑なバス路線 1 道がせまくて不便 1 道路などの不備 1 不便なところ 1
	混んでい る・人が 多い	対象要素 無 8	混んでいること 3 混雑している 2 混雑 1 混んでいて見られない 1 渋滞 1
		観光地全 般・遊び 1	駐車場が混む 1
		交 通 14	交通渋滞 8 満員電車 3 道路混雑 1 乗り物がこむ 1 車が多い 1
	55	32	人・一般 人が多いこと 14 人が多すぎる 2 人で混雑している 2 人の多い（混雑）ところ 2 人がごみごみしていること 6 人ごみで泳げない 1 人間がたくさんいる 1 団体客のいるところ 3 修学旅行者のいるところ 1
	物価・料 金が高い	対象要素 無 16	物価が高い 6 物が高い 1 高料金 3 料金が安い 1 不法な料金 1 金銭面 1 利潤追求主義 1 金銭主義 1 商業主義 1
		観光地全 般・遊び 3	食物が高い 3
	サービ ス・商品が 悪い	対象要素 無 7	サービスの悪さ 3 サービスが悪い 2 強制的にやられる 1 決まったサービス 1
		観光地全 般・遊び 1	サービスが悪く観光客馴れしているところ 1
		宿泊・飲 食施設	旅館の悪いサービス 1 宿の対応の悪さ 1

観光地・ 観光事業			不愛想なホテル 1 民宿でのトラブル 1 民宿の家庭的雰囲気 1 宿の接たいが悪い 1 遅くまで酒が飲めない宿 1 遅くまで騒げない宿 1 チップなどのトラブル 1 浴衣姿が嫌 1 食事が悪い 8 食べ物がまずい 3 食事がまずい 3 うまい料理がない 1 食事が冷えている 1 食事が少ない 1 おいしいものがない 1 水がよくない宿 2
	38	30	
	観光地化 されすぎ	観光地全 般・遊び	同じような土産品店 2 一般化されすぎているところ 2 見るものがない観光地 5 見学地が少ない 1 各所がない 1 目新しいものがない 1 行動範囲が限られるところ 1 楽しみが少ないところ 1 同じような環境のところ 1 遊ぶ所がない 3 観光地化されすぎているところ 1 都会化されているところ 1 設備が整い過ぎているところ 1 開発されすぎている 1 有名でありすぎる 1 人工的な産物の多いところ 1 作爲的な雰囲気 1 作られたわざとらしい所 1 見かけだけのところ 1
	30	人・一般 3	団体で同じことをするところ 1 集団行動によるおしつけ 1 人と同じようなことをする 1
	風紀が悪 い	対象要素 無	治安の悪さ 4 からまれる 1 犯罪にあう 1 おそわれる 1 喧嘩しそう 1 他からの危険 1 危険な感じ 3 危険なめに会う 1 こわい所 1 恐怖感 1 盗難にあう 4 スリに会う 1 せつ盗にあう 1 カツアゲされる 1 うるさい 1

観光地・ 観光事業		27	やかましい 1 落ちつかない 2 騒々しい 1
		観光地全 般・遊び 8	不健康な遊び 1 不純な女性のいる所 1 低俗な施設 1 盛り場の商売 1 見たくもないショーを見せられるところ 1 タクシーの呼び込み 1 にせ物を買わされるようなところ 1 しつこい客引 1
		人・一般 23	ヤクザに会う 4 ヤクザと係りを持つ 2 言葉の乱暴な人との出会い 1 暴走族にからまれる 2 人とのトラブル 2 人と無意味なもめあいをする 1 酔っぱらいなどにあう 1 酔っぱらいが多い 1 人的な被害にあう 1 マナーの悪い旅行者にあう 1 サーファーのひどさ 1 アンノン族みたいなのにあう 1 ミーハーが多い 1 嫌な人にあう 1 変人とつきあう 1 他の観光客がうるさくするのをとめない 1 ダサイ兄ちゃんが多い 1
218	58		
人間関係	出会いが 無い	対象要素 無 4	ふれあいがない 1 孤独感 1 孤独になってしまう事 1 独りで寂しい 1
		異 性 13	女の子との出会いがない 4 女の子がいない 2 女性が少ない 1 男との出会いばかり 1 男とばかり遊ぶ 1 男との夜遊び 1 男との語らい 1 男との食事 1 女の子が多い 1
		人・一般 10	人の少なすぎる所 2 子供しかいない 1 老人が多い 1 高齢者がいる所 1 年寄りがいる 1 老人に囲まれる 1 人と知り会えない 1 下町の荒れた人間関係 1 さびれた関係 1
	27		

人間関係	不親切	対象要素 無 3	ひ(し)っこい 1 不親切 1 イヤなことをされる 1
		土地の人 10	土地の人に素朴さがない 2 旅行者につめたい 1 観光地での不親切 1 土地の人の旅行者への偏見 1 他の土地の者への偏見 1 人情が薄い(地元) 1 地元の冷淡なあしらい 1 土地の人との人間関係がうまく行かない 1 人の不親切(地元) 1
40	13	10	
観光者自身	むだを する・失敗 する 23	対象要素 無 23	むだ使い 4 金のむだ 9 お金を落す 2 時間の浪費 2 時間のムダ使い 1 移動する時間のムダ 1 キセルをしてつかまった 1 都会に自分があわないことに気づく 1 物をなくす 1 物を壊す 1
	つかれる 12	対象要素 無 12	つかれる 4 ただ疲れるだけ 2 疲れ 1 疲れるのがはやい 1 体力消耗 1 登るのがつらい 1 疲労 1 旅でつかれただけが残そう 1
	病気にな る・事故 をおこす	対象要素 無 12	病気となる 2 病気になる 1 不健康になる 1 ケガをする 1 吐く(酔う) 2 緊急の場合の処置がおくれる 1 山での事故 1 おぼれる 1 ドラッグの類 1 危険な動物がいる 1
	18	交通 5	交通事故にあう 3 不可抗力による交通事故 2
		人・一般 1	ドザエモンに会う 1
	不安があ る	対象要素 無	わからないという不安 2 旅先が様子が分らない 1 風俗がわからない 1 衣服・習慣の差異 1

観光者自身			合わない食習慣 1 土産品がないかもしれない 1 ことばの不安 4 土地に対する不信感 1 感覚的な嫌悪感を感じる 1 総合的な不安感 1
	14	14	
87	期待はずれ	対象要素 無	理想とのくい違い 1 自分の思い通りに行動ができない 1 計画どおりに行動ができない 1 ひますすぎる 2 退屈な事がおこる 1 生活環境のちがいがいい 1 都会だと思ったが牛がいた 1 若者向けになっている 1 日常と変わらない 1 旅行気分にならない 1 何度も行っただけでおもしろくない 1 ポピュラーなものを見るのが嫌 1 普段でも行ける 1 近かすぎる 2 見て回るだけの旅行 1 動きがとれない 1 異人種との出会い 1 つまらなくなってしまう 1
			20
述語要素 無	述語要素 無	観光対象 (自然・ 人文) 8	寒さ 1 地震 2 気象条件 1 雨 3 あつさ 1
		地元の人 2	中年女の京都弁 1 大阪弁 1
10	10		